

平成27年度ルネサンス高等学校評価書

大子町

1 学校の概況

- 学校名 ルネサンス高等学校
- 課程 広域通信制・単位制・普通科
- 教職員 校長 鎌田茂樹
副校長1名 教頭1名 教諭15名 事務長1名 事務4名 用務1名
顧問（広報担当）1名 計25名
- 生徒数 （入学定員 3,300名） 1,043名
- スクーリング参加生徒数 921名
- 卒業生 532人
進学35%，就職17%，その他（家事手伝い，現在の仕事の継続等）48%

【評価】

在籍生徒数は、東日本大震災や豊田校開校などの影響から回復した平成24年度以降、他の広域通信制高校との競合のため26年度1,404名、27年度1,043名と減少傾向が見られる。平成25年度から法人税所得割の納付が始まっているが、今後とも定員である3,300名の確保を目指していく必要がある。

スクーリングについては921名が参加しており、宿泊をはじめ送迎バス、施設利用やお土産の購入等、観光関係及び体験学習等を通じて年間46,050,000円（1人あたりの参加費50,000円）の経済効果が認められる。

卒業生の進路については、生徒の希望や実態に応じた支援を行い、難関大学への進学者が増加するなどの成果をあげているが、特に就職関係についてはいっそうの支援体制の充実が必要である。教職員数については、生徒数に応じた教育ができる人員を確保しているが、今後の生徒数の増加に対応しながら、教科指導の専門性を高めていくため、さらに優秀な人材を確保していくことが必要である。そのような中で、現在の地元採用状況は9名（大子町在住者6名）となっているが、人材確保のために関係機関と連携し、当初の目的の一つである地元雇用促進に継続して努めていくことが望まれる。

2 教育活動

ルネサンス高等学校は、「『学力がつく・やりたいことを極める』新しい高校」を教育理念として、平成27年度は、4つの目標「1 基礎学力を再生して（学力回復教育）高校を卒業」「2 学ぶ楽しさを体験する科学の授業で、生涯を学び人に」「3 目覚めよ！自分力。やりたいことにチャレンジ」「4 徹底的な個人指導と親身なサポート体制」を掲げて教育活動に取り組んできた。

その結果については、ルネサンス高等学校学校評価・改善委員会により、別紙の通りの学校自己評価がなされている。

【評価】

(1) 学校運営

学校運営については、学校としての運営・責任体制が整備され、教職員の信頼関係のもと、適切な教育課程に基づく教育が展開されている。今後は、校内の会議や研修会を活用し、教員の相互理解や課題に対する意識をさらに高めていくことが望まれる。

また、平成27年度の入学者数については359名であり昨年度(330名)に比べ増加している。今年度から面接指導の日数を4泊5日から2泊3日に短縮し、生徒が面接指導により参加しやすい体制にしたことから、来年度の入学者数についてはさらに増加していくことが期待される。今年度は、新規に地元の中学校校長経験者を広報担当の専任の要員として雇用し、茨城県内の中学校・高等学校を訪問し広報活動を展開してきたが、今後とも地元（茨城県・大子町）からの入学者をさらに増加させるよう努めていくことが望まれる。

昨年12月以降全国的な問題となっている高等学校等就学支援金事務については、文部科学省の事務処理要領に基づき適切に執行されており、文部科学省が全国の広域通信制高校を対象として行った緊急点検でも指摘される問題点はなかった。

(2) 教育内容

教育内容については、生徒の実態や要望を十分に考慮するとともに、インターネット等の方法を活用し、添削指導・面接指導の充実に努めている。

ア メディア学習の充実

従来から、生徒がメディアの動画を視聴した上で、小テストにより理解度を確認しながら学習が進められるようにメディア教材を工夫している。

さらに、今年度から、23科目についてメディア学習にNHK高校講座を新規に導入し、従来の東京書籍教科書解説メディアと合わせ2メディアで学習する体制とした。併せて、従来のiPadに加え、タブレットから操作可能なDVDプレーヤーを生徒に配布し、視聴環境の充実を図った。

イ 添削指導

従来からインターネットを活用した添削指導を行っているが、昨年度から選択肢のみによるレポートの形式を改め、文・単語による記述や多様な形式を設定したレポートを提出させたりするなど、添削指導の改善を進めている。

今年度はメディア学習にNHK高校講座を新規に導入したが、レポートの中にNHK高校講座の内容に関する設問を加え、生徒が視聴したことを確認できるよう工夫している。

ウ 面接指導

昨年度は4泊5日で実施していたが、今年度から2メディアでの学習体制したことから、学習指導要領に基づき面接指導の時間数が軽減され2泊3日で実施されることとなった。

教育課程に定められた科目ごとに、各担当教員が生徒の興味・関心を考慮しながら適切な内容で面接指導の授業を展開している。

エ 試験

従来はインターネットによる自宅受験を行っていたが、昨年度から、面接指導期間中に試験の時間を設定し、本校において教諭の監督の下に厳正に試験を実施する体制がとられている。

今後とも、学習指導要領及び高等学校通信教育規定に基づく質の高い教育を展開できるよう、メディア教材、添削指導及び面接指導の内容のさらなる充実と教員の指導体制の強化に努めることが必要である。

(3) 生徒・進路・保健指導

生徒指導については、校内体制や危機管理体制が整備されており、重大な事故もなく学校教育が安全に展開されている。「いじめの防止等のための基本的な方針」（平成25年10月11日 文部科学大臣決定）を受けて昨年度策定した「ルネサンス高等学校いじめ防止基本方針」に基き、校内研修を充実させている。

進路指導については、進路希望の実現に向けて個々の生徒の状況に応じた支援を行っている。昨年度から、保護者・生徒・学校の三者による面談を、新宿代々木キャンパスにおいて希望者を対象として開催し、進路や学校生活に関する相談を実施している。

保健指導については、スクーリング時の特別活動（健康）を中心に健康管理、生活習慣、健康増進に向けた取り組みを行っている。

今後も、警察・消防・学校医などのほかハローワークなどの関係機関との連携をさらに強化し、保護者との連絡・連携を密にしながら、より質の高い対応を図ることが望まれる。

3 施設及び設備

ルネサンス高校は、「高等学校通信教育規定」に規定する施設（教室、図書室、保健室、職員室）及びスクーリング時に必要な設備（視聴覚設備、図書、保健関係備品等）を備えている。また、旧浅川小学校の校舎・校地活用という地域ニーズに基づき設置されたため、旧小学校の校舎面積及び校地面積をそのまま引き継いでいるが、教育活動に支障は生じていない。

【評価】

廃校となった小学校をよく整備して使用しており、スクーリング時に使用する校舎として、施設・設備は十分なものとなっている。また、地域住民と協力しながら四季の変化に応じた草花を植えたり、道路上に面する花壇の植栽を整備したりするなど、環境美化に努めている。

今後も、校舎環境の美化・適切な修繕など、より一層利便性の向上・安全衛生の確保に努めていく必要がある。

教育理念	「学力がつく・やりたいことを極める」新しい高校	当年度の課題
目標(テーマ)	・基礎学力を再生して(学力回復教育)高校を卒業 ・学ぶ楽しさを体験する科学の授業で、生涯を学び人に ・自覚めよ!自分力、やりたいこと=チャレンジ ・徹底的な個人指導と親身なサポート体制	・学習指導要領に基づき、質の高い教育を展開できるよう、レポート及びスクーリングの内容の異なる充実と教職員の指導体制の強化に努める。 ・いじめの防止等に留意する措置を実効的に実行するために組織委員会を設置すること。 ・学校運営に関する関係者評価を実施し、より質の高い学校運営をすること。

※評価基準…A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:出来ていない

分類	評価の観点	評価項目	具体的な評価項目	評価	評価の観点と理由	改善方策
学校経営	学校運営	教育目標	多様な生徒の学力・体調面など、個々の状況に応じて適切な支援・指導を行っている。	B	・教育課程の編成、実施の考え方について、理解を深めた上で、より効果的な面接授業を実施していく必要がある。	・面接授業については、科目担当教員を中心として、全職員で、精神的及び学力の不安とする生徒支援ができる体制にしていく。
		運営方針	自己評価及び保護者など学校関係者による評価を実施していくとともに、学校運営方針を具現化していく。	A	・基礎学力が不足している生徒への個別対応とレポート理解度を向上させるための体制づくりが課題である。	・レポート指導については、当校以外での支援体制(主要都市でのレポート支援会の開催)を整えていく。
		学習指導要領の対応状況	教育課程は学習指導要領に沿っており、その編成・実施の考え方について、教職員間で共有ができている。	B		
	教職員連携	組織運営	校務分掌や各委員会、主任体制などが適切に機能するなど、学校運営・責任体制が整備されている。	A		
		教員・教科間連携状況	教職員間の相互理解がなされ、共有及び信頼関係が構築され、教育活動が行われている。	A	・昨年度確立した組織運営や校務分掌、各主任及び主事体制が適切に機能した。	・教員間・事務職員間の連携・情報共有のため、職員会議やスクーリング会議を更に質の高いものにしていく。
		教員と事務職員の連携状況	教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解及び連携がされている。	B	・定期的な職員会議や運営委員会を行なっており、教員と事務部間での情報共有・意見交換の場面設定を行うことができた。	・各主任、主事が自発的に職員を募集していく体制つくりを行い、情報共有や意思統一を図っていく。
		会議の有効性	職員会議や運営会議、スクーリング会議などの共通認識・共通理解のもと、有効かつ効率的に機能している。	A		
	財務関係	財務に関する意識	経営指標と財務状況について理解している。	B		
		財務状況の把握	予算・決算の収支状況について理解している。	B	全教職員に対し、学校運営責任者による経営指標・財務状況を説明しているが、更なる理解度を高める必要がある。	学校運営責任者及び財務担当者から、報告できる場面設定を行い、全教職員の財務意識を高め、共有していく。
	危機管理	役割分担	事故・事件・災害などに対する連携及び役割分担が明確になっている。	A	・関係各所(警察・消防・学校医など)の連携はこれまでおり、事件・事故・災害などに対する指示体制も整っている。	
		安全管理	安全な学習環境づくり(校舎内外の安全点検管理及び諸活動)を推進する。	B	・万が一の災害等に備え、教職員だけでなく生徒も参加した避難訓練を計画し実践していく必要がある。	・危機管理意識を高めるために半期に1度、全体会議を実施する。
		危機管理対応状況	危機管理マニュアルに基づき、町役場、警察、消防と連携するなど、安全対策がされている。	A	・個人情報管理については、プライバシーの確保を維持しており、研修体制も整えている。	・避難訓練を学校安全計画に位置づけ、生徒が体験的に理解できるよう計画的に実施し、万が一の災害等に備える。
		個人情報管理	生徒情報管理が適切に行われている。	A		
	涉外	生徒募集	学校説明会の実施や学校案内パンフレットなど、効率的な広報に工夫・充実させる。	B	学校説明会を定期的且つ広範囲で実施し募集中止を行なった。また、地元の公立学校を退職された元校長を顧問に迎え、県内及び近県への学校訪問を実施し、認知度拡大を図った。	ニーズのある地域での学校説明会等を更に強化していくとともに、関東圏、茨城県内の生徒獲得のために学校の特色の周知を図っていく。
		各教育機関との連携	市町村教育機関への訪問や県私学連絡協議会加盟校と連携した広報活動していく。	A		
教育内容・支援	面接指導・添削指導等	スクーリング参加状況	年間スクーリング日程計画に基づいた参加促進を行う。	B	・メディア学習(「メディアー2メディア」)が増えたが、昨年同等の提出状況であった。しかし、メディアの内容及びレポートの内容については、さらに学習成果(興味・意欲・关心)が上がるよう修正していくよう努める。	メディアの内容をより取組みやすいものに変えていく。また、スクーリング日程については、生徒の意見・体験学習施設の状況により、見直しを行う。
		スクーリング内容(面接授業)	各科目担当者が創意工夫を行い、生徒の興味・关心・意欲が高められる授業を展開していく。	A	・スクーリング日数が5日から3日になったことで、生徒自身の身体的・精神的な負担が減り、問題なく全日程が終了した。しかし、生徒評議による評価結果に基づき、実施日程や面接時間割等を検討し、更なる顧客満足度を高めていくよう努める。	
		レポート内容・添削	メディア学習増(スクーリング日数減)に伴い、全生徒の動画視聴記録やレポート提出状況を把握し、予定どおりの提出に向けた支援を行なう。	B		
	情報発信	ネット回線の有効活用	本校独自でネット開設している「マイページ(通称)」にて、タイムリーな情報提供を行なっている。	A	学校独自のネット開設(通称:マイページ)により、学校イベントなどの情報提供を行なっている。また、定期的な発行物(通称:ルネ高速信)を自宅に発送し、生徒だけでなく、保護者にも情報提供を行なっている。	学校の事務的な情報提供だけでなく、ブログ等のSNSを活用し学校の雰囲気をつかむことができるツールを活用していく。
		個人に対する効果的な情報提供	当校独自で不点開設している「マイページ(通称)」にて、生徒及び保護者が学習進捗の確認や各分野毎(進路など)の情報が閲覧できる。	B		
	情報教育	情報能力知識	各種活用能力の知識を向上させる。	A	情報の教科を中心に常に進化している「ネット社会の実態」について重点をおき、タブレット(iPad)を使用しながら取り組んでいる。また、インターネットにおける若年者のトラブル・危険性についても理解を深める授業を行なっている。	情報ツールを活用したコミュニケーション方法を通して、より活用能力を高めることができるよう努めていく。また、継続してインターネットによるトラブル等について理解を促すよう努めていく。
		情報モラル指導	情報発信・公間に伴う責任など情報モラルの教育に取組む。	A		
生徒・進路・保健指導	生徒指導	指導方針の一貫性	指導方針に従い、生徒及び保護者の満足度(進級卒業・進路決定などを高める)。	B		
		生活指導について	学校組織に基づき、生徒が安全に諸活動ができるよう共通認識にて運営していく。	A	生徒指導は、生徒の在宅時やスクーリング参加時も含め、十分に対応できている。家庭との連携については、担任に依存しているところがあり、組織的に行なっていくことが課題である。	生徒・保護者との連絡・連携が効率よく行えるよう整備が必要である。特に生徒指導においては、外部機関との連携を強化し、より質の高い生徒対応ができるよう努める。
		家庭との連携状況	計画的かつタイミング一な連携をとり、充実した学校生活が送れるよう支援していく。	B		
		いじめ等の問題行動の未然防止	すべての生徒が安心した学校生活を送れるよう、基本方針に基づき、指導体制を整備していく。	A		
	進路指導	キャリア教育について	生徒一人ひとりの状況に即し、主体的な進路選択に結びつく適切な指導をしていく。	B	希望進路実現(進学・就職)に向け、計画的に実施している。しかし、試験対策指導(筆記・面接など)の強化が必要である。	進路について、担任一人ひとりが最新情報を共有し、適切な進路指導を行える体制を整える。
	保健指導	健康の保持増進について	生徒が心と体の健康を自ら管理できる知識と実践力を育成する。	A	スクーリングの特別活動(健康)にて、生徒の健康管理・生活習慣・健康増進に向けた取組みを実践している。	保護者に対しても情報提供を呼びかけ、状況の把握・対応について対策を行なっていく。
その他	学校関係者評価	学校関係者評価	計画的、継続的に実施し、教育の質の向上、学校運営の改善強化に向けて取組み、開かれた学校づくりを進めていく。	A	年に1度、学校関係者評価を実施し、意見を集約して、年度内に修正、次年度に向けた改善目標を行うことができた。	学校関係者評価の運営方法を改善し、更なる質の高い運営を行なっていく。
		教職員研修	教職員が計画的に研修(生徒指導・保健指導等)に参加できる習慣や体制が整備されている。	B	学校内研修(生徒指導面)や県主催の研修に参加し、参加者による伝講会にて共有を図った。	校内研修の実施回数を増やし、教職員のスキルアップを図る。
		他校及び関係機関との連携	姉妹校、県私学連絡協議会加盟にて、通信授業高校としての在り方などの情報交換を行い、学校全体としての向上を高める。	B	県私学連絡協議会での情報交換や事務局による研修に参加し、教職員のスキル向上を図った。	グループ全体で、運営方法全般に関する事例を共有できる仕組みづくりを整えていく。

